

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】

令和6年6月17日(月)～令和6年6月23日(日)【令和6年第25週】の感染症発生状況

第25週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 新型コロナウイルス感染症 2) 手足口病 3) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎でした。

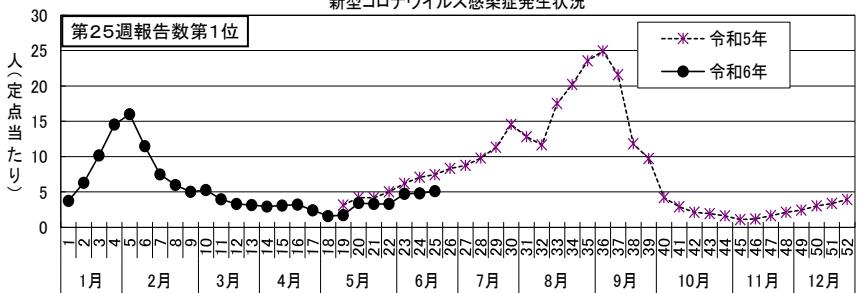
新型コロナウイルス感染症の定点当たり患者報告数は5. 10人と前週(4. 78人)から増加しました。

手足口病の定点当たり患者報告数は4. 89人と前週(4. 14人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。

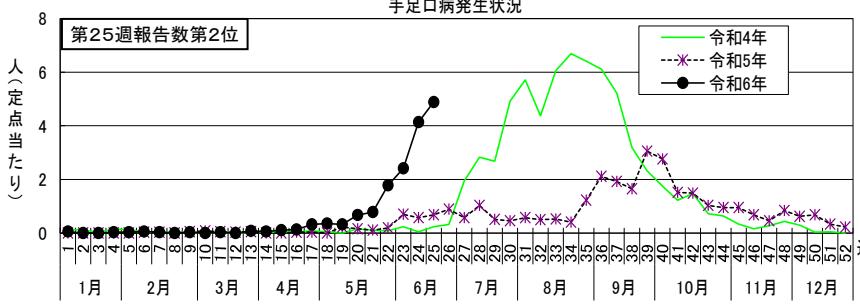
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は3. 89人と前週(3. 58人)から横ばいで、例年より高いレベルで推移しています。



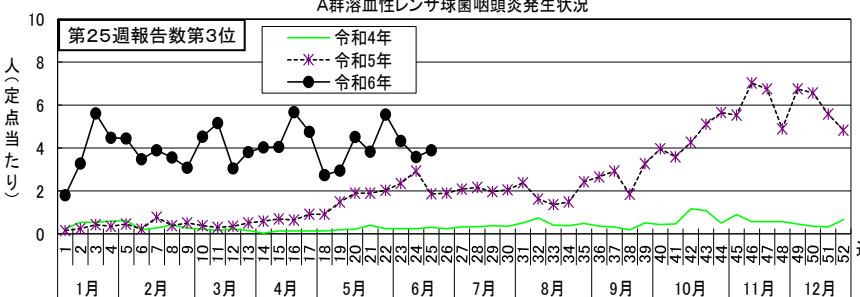
新型コロナウイルス感染症発生状況



手足口病発生状況



A群溶血性レンサ球菌咽頭炎発生状況



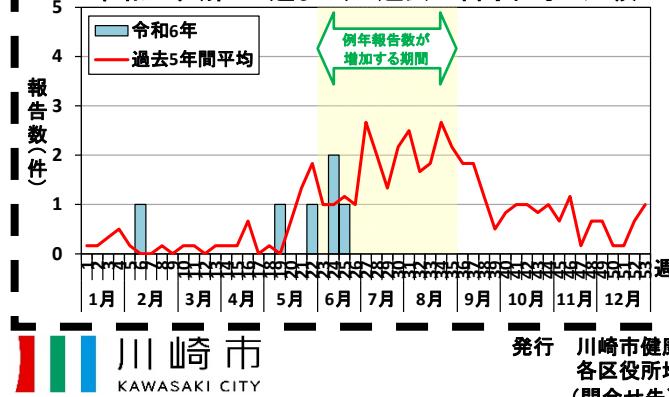
腸管出血性大腸菌感染症に御注意ください！

腸管出血性大腸菌感染症は、強い毒素を産生する大腸菌を原因とする感染症です。主な症状は、激しい腹痛、下痢及び血便ですが、溶血性尿毒症症候群(HUS)や脳症等の重篤な合併症を引き起こし、命に関わることもあります。

腸管出血性大腸菌は気温や湿度の上昇に伴い増殖が活発になるため、例年夏季に患者報告数が増加します。川崎市においては、令和6年第25週(6月17日～23日)までに計6件の報告があり、今後更に増加する可能性もあります。感染力が非常に強く少ない菌数でも感染するため、食材の十分な洗浄・加熱及び適切な保管等の予防対策が重要です。

また、患者の便を介した二次感染も起こりますので、食事の前や排便後は手指衛生を徹底しましょう。

川崎市における腸管出血性大腸菌感染症の発生状況
-令和6年(第25週まで)と過去5年間平均の比較-



腸管出血性大腸菌感染症の予防対策

● 食中毒予防

✓生肉や加熱不十分な肉の喫食は避け、肉類は中心部まで十分に加熱する。(75°C、1分間以上)



✓肉を焼く際には、専用の器具(箸やトングなど)を使用する。



✓生で食べる野菜は流水でよく洗う。



✓まな板は、使用の都度洗剤を使用して洗浄する。



✓食品は適切な温度で保管する。



● 二次感染予防

✓食事の前、排便後などは手洗い、手指消毒を徹底する。

